



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 2695号 2015.10.29 発行

〔地域活性化〕 高齢者呼び込みに力

秋田魁新報 2015年10月28日

本県の人口に占める65歳以上の割合を示す高齢化率はことし、統計が残る1975年以降で最高の33.6%となった。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2040年には43.8%に達する。人口減少とともに進む超高齢化社会に対応するため、県

が新たに取り組むのが高齢者向けケア付き共同体「秋田版CCRC」だ。

基本目標

「地域が住みやすい」と思う人の割合 60.0%→80.0%
社会・地域活動への参加者割合 46.4%→68.0%

女性と若者の活躍推進
<ul style="list-style-type: none"> ●女性の活躍に向けた行動計画策定を促進。 ●若者団体の育成やネットワーク構築の支援。 ▲指標：5年間で女性の管理職登用率を盛り込んだ行動計画を策定した中小企業を200事業所に増やす ▲指標：地域貢献活動に取り組む若者団体を30団体に
高齢者が活躍できる地域づくり
<ul style="list-style-type: none"> ●秋田版CCRC実現に向けたニーズ調査。 ●CCRC周知のためのシンポジウム開催。 ▲指標：CCRCに5年間で168世帯入居
地域コミュニティ活動の活性化
<ul style="list-style-type: none"> ●全県域で地域活動などを支援する。 ▲指標：元気ムラ活動に取り組む集落を5年間で1160集落に倍増

※基本目標の数字は、14年度実績→19年度の目標

米国発祥のCCRCは「継続的なケア付きリタイアメントコミュニティ」の略。政府の有識者会議は日本版CCRCを「生涯活躍のまち」と名付けた。高齢者が元気なうちに移り住み、地域の仕事や生涯学習への参加を通じて、健康で活動的な生活を送ることを目指す。ただ、国から自治体への財政支援など制度の詳細はまだ決まっておらず、秋田版CCRCの考え方も明確に定まっていない。

今のところ県は、整備エリアによって市街地型と郊外型の2パターンを検討する方針。首都圏で予想される高齢者の急増を見据え、退職者らの県内移住を促進するほか、豪雪地帯で暮らす県内高齢者らも対象とする。健康

なうちに移住してもらい、現役時代の知識や経験を生かして地域活性化や産業振興につなげたい考えだ。

県内の市町村に導入に向けた意向調査を行った総合政策課は「複数の市や町が導入に前向きだった。はじめは県央、県北、県南に各2、3カ所設けたい」としている。19年度までに7カ所で整備し、計168世帯の入居を目標に掲げる。

県内では既に秋田銀行が秋田市や大学などと研究会を立ち上げたほか、県、秋田市、JR秋田支社の3者が連携協定を結んで検討に入った。県は近く県内外の高齢者を対象にCCRCに関する意向調査を始める。

CCRCは国が旗振り役となり、全国各地で導入が検討されている。首都圏から移住者呼び込むには、他県との違いをどう打ち出し、アピールしていくかが重要となる。併せて元気な地域づくりには、女性や若者の力を生かす施策も欠かせない。

福岡マラソンわくわく あと10日、街は準備着々 [福岡県]

西日本新聞 2015年10月29日

11月8日に開催される「福岡マラソン2015」までいよいよあと10日。目前に迫る大会を前に、福岡の街のあちらこちらでは、ムードを盛り上げる“カウントダウン”が

始まっている。

地下鉄天神駅に施された福岡マラソン2015のポスター

福岡市営地下鉄天神駅では、通路に立つ計10本の柱に青や黄色のPRポスターがお目見え。地下鉄博多駅や大型商業施設の外壁などにも貼られ、ポスターの数は市内全域で計約2100枚に上る。市役所1階ロビーの電光掲示板も開催日までのカウントダウンを日々告げる。実行委員会事務局は「いよいよ大詰め。本番まで準備に気を抜かず駆け抜けます」と意気込む。

大会コースの24～29キロ付近となる同市西区の今津校区では沿道からランナーを応援しようと、地元の自治協議会（大歯修司会長）の音頭で、障害者支援施設「第一野の花学園」の利用者たちが赤や黄、緑色などの手形をつけた横断幕（縦80センチ、横5メートル）を作成した。このほか、今津小学校や今津特別支援学校、国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局福岡視力障害センターも協力し、沿道に並べる計42本ののぼり旗（縦150センチ、横45センチ）を完成させた。旗には「ひたすら前へ」「海の風を力に」などと手書きしている。



輝く「義足の女神」たち 写真家・越智さん モデルに抜てき

東京新聞 2015年10月29日

義足を着け、ファッションショーでポーズをとる女性たち＝大阪市で

「事故や病気で足を失った人が使う義足は、世界一速く走るためのアイテムであり、おしゃれなアクセサリにもなるんだよ」。金属質で冷たく、重たそうといった暗いイメージを払拭（ふっしょく）しようと、写真家越智貴雄さん（36）は義足の女性たちを撮り続けている。レンズに写るのはハンディを個性に変えた華やかな姿だ。（田尻良太）



色とりどりの着物姿に、はじけるような笑顔。九月中旬、大阪駅の複合商業施設で開かれたファッションショーで、義足を着けた四人の女性が赤いランウエーをゆっくりと歩いた。

義足が隠れないよう、着物の足の部分が大きく切り開かれている。「かっこいい！」。ポーズを取るたびに大きな歓声が上がった。

四人は、昨年五月に越智さんが出版した写真集「切断ヴィーナス」で、初めてモデルを経験した女性たち。華やかなドレス姿に加え、義足を着けて通勤する日常風景や切断した太ももをあらわにした写真も並ぶ。

「緊張したけど、普通に過ごしているとモデルになる経験なんてない」。うれしそうに話すのは、十九歳の時に交通事故で右膝から下を切断した神奈川県茅ヶ崎市の阿部未佳さん（24）。今は専門学校で看護を学び、スノーボードの練習を続けている。病気で、左足の股関節から下を切断した和歌山県田辺市出身のアーティスト須川まきこさん（41）も「足を失った苦難さをも個性に変えて表現することができる」と胸を張る。

大阪府藤井寺市出身の越智さんは大阪芸術大に在学中の二〇〇〇年、パラリンピックシドニー大会に行き、夢中でシャッターを切り続けた。片足だけで跳びはねながら助走し、自分の身長以上の高さを越える走り高跳び。100メートルを11秒で走り抜ける義足のランナー。「強いエネルギーを感じ、純粋にスポーツとして興奮した。自分の先入観という壁が一枚一枚、取り除かれていった」と振り返る。

一年後に東京・銀座で写真展を開催。一日に約五百人が訪れるほど好評だったものの、「障

害のある人にスポーツさせるなんてかわいそう」という来場者の言葉にショックを受けた。「あの感動をちゃんと伝えることができなかった」。悔しさは、パラリンピックの撮影を続ける原動力となり、ファッションショーも企画してきた。

ショーに出演した四人の義足を製作し、義肢装具士として三十二年の経験を持つ臼井二美男（ふみお）さん（60）は「隠して当たり前と思われているが、見る人も、使う人も勇気を持って」と話す。

ありのままの自分を見てもらうことで自信を取り戻した“義足の女神”たち。越智さんも賛辞を贈る。「僕の仕事はシャッターを切るだけ。みんな本当にかっこよく生きている」

<義足> 日常用やスポーツ用などがある。全国で約8万人が使用。標準的な義足は膝下からだと40万～50万円、膝上だと50万～100万円程度で、一部に保険が適用される。陸上や自転車、スノーボードなど、どんな競技でも専用の義足を作るとは可能だが、特別な練習をしなければ使いこなすのは難しい。

福岡県内で障害児童・生徒向けデイサービス開始へ ウチヤマHD

産経新聞 2015年10月29日

「さわやか愛の家」

ウチヤマホールディングス傘下の「さわやか倶楽部」（内山文治社長）が、障害を抱える6～18歳の児童・生徒向けの「放課後等デイサービス」に乗り出す。11月1日には北九州市小倉北区熊本に第1号の事業所「さわやか愛の家」を開所する＝写真。今後、平成30年度までに福岡県内に20施設を設ける。



定員は10人。介護施設やカラオケ館を展開するグループの強みを生かし、カラオケ大会や高齢者との交流も積極的に図る。

内山氏は「3年前から子供の支援事業を考えてきた。明るく、元気に社会に出てもらえるよう精いっぱい支援したい」と語った。

1号館の管理者、青木大輔氏（26）は「さまざまな障害を抱えた子供を世話した経験のあるスタッフがいる。ぜひ、ご安心ください」と語った。問い合わせは、さわやか倶楽部（電）093・551・5555。

（老人ホームの質） 職員の表情や清掃状況を見学・宿泊して比較 退職者数もヒントに

朝日新聞 2015年10月29日

有料老人ホーム選びは、老後の生活に大きくかかわります。失敗しないためには、どんな点に気をつけたらいいのでしょうか。劣悪な施設を見分ける注意点や対応策を専門家に聞きました。

建物の外観がきれいでも、内部の介護の「質」はわからない。入居を決める前に、施設をよく知ることが重要だ。

高齢者住宅財団の高橋紘土理事長は、有料老人ホームを選ぶ際の注意点として「見学をして泊まり、食事をする。1カ所だけ見に行くのではなく、複数と比較することが大切」と指摘。焦って選ばないように早めの準備を勧める。

実際に見学する時にこそ、劣悪な施設かどうか見破るヒントがある。介護保険制度が始まる前から「特養ホームを良くする市民の会」で活動してきたNPO法人「Uビジョン研究所」の本間郁子理事長は、職員が笑顔かどうか、配膳がぞんざいでないか＝図＝などに注目するという。

インターネット上にも手がかりがある。介護の苦情や消費者トラブルを長年分析してきた元国民生活センター調査室長の木間昭子さんは、介護保険法に基づいてネット上で公表

されている「介護サービス情報公表システム」の活用を勧める。このシステムは、有料老人ホームなど介護保険の対象となる施設を地域やサービス種別ごとに検索できる。気になる施設があれば、介護職員に関する項目のうち「退職者数」「経験年数」などを見ておきたい。

木間さんは「多くの職員が辞める施設は、労働環境に問題がある可能性がある。職員が頻繁に入れ替われば入居者の特性を把握した介護がしにくくなり、介護事故の原因にもなる。経験年数も重要です」と話す。ただ、サイト内でたどりつくのが難しいので、表の手順を参考に。

もちろんデータだけで判断するのは危うい。気になる点があれば、施設側に説明を求めるようにしよう。

一例として、転落死や虐待が問題となっている「Sアミーユ川崎幸町」（川崎市）の従業員情報を調べてみた。開示されている情報では、8月31日時点の常勤介護職員数は29人で、2014年度の退職者数は18人。6割ほどが入れ替わったことになる。更新前の開示情報によると、13年度には22人が退職していた。

運営会社の親会社メッセージ（岡山市）に確認したところ、系列施設への異動も「退職者」に含めており、実際に会社を辞めたのは14年度で11人だという。ただ11人でも常勤介護職員の4割近い。同社経営企画部は「離職率が高いのは事実。採用後の教育およびフォロー態勢に問題があったと思われる」と説明する。

■不信募ったら退去の検討を

有料老人ホームに入居する家族が虐待を受けているのではないかと。入居後にそんな不信感を抱いたら、どうすればいいのだろうか。

介護問題の相談に応じている「介護・福祉系法律事務所おかげさま」（東京）の外岡潤弁護士によると、監視カメラなどに職員の虐待行為が記録されていれば決定的な証拠になる。一般的に有料老人ホームの個室であれば監視カメラを設置しても問題がないが、居間などの共用部分はプライバシーの問題が生じるので注意が必要だという。

そのうえで、外岡弁護士は「いくら証拠をおさえても、家族が虐待被害を受けてからでは遅い。疑いが消えなければ早めに見切りをつけ、退去後の選択肢を考えたほうがよい」と助言する。

退去を決めたら、改めて契約内容を確認したい。有料老人ホームの居住費は「月払い方式」と「前払い方式」がある。前払いの場合、高額の入居一時金が戻ってくるかをめぐるトラブルが後を絶たない。

一時金の返還額は入居期間に応じて変わる。入居後3カ月以内の解約なら「90日ルール」があり、家賃と実際にかかったサービス費以外の返還が義務づけられている。厚生労働省高齢者支援課は「仮に90日ルールに反する内容の契約書があっても違法となる」とする。不審な点があれば、有料老人ホームを監督する都道府県などに相談を。

大事な仕事の日に限って熱を出す子どもの心理とは 日本経済新聞 2015年10月29日

「しつけ」というと、皆さんどんなことを想像しますか？ 食事、あいさつ、お片付け、言葉遣い…様々なことを教えなければならぬと思っている方も多いと思いますが、私は「親の反応の仕方」こそしつけの大切なポイントであり、人格形成の基礎だと思っています。パパやママがどんなとき、どんなことに大きく反応するのか。親の反応の仕方でも子ども達は感情を学習していきます。

劣悪な施設を見分けるには…

① 見学時はここをチェック

▶ 職員の表情…

入居者と笑顔で接しているか。表情に心のゆとりが表れる

▶ 食事介助の仕方…

食器やお茶をどのように配膳しているか。声もかけず、ぞんざいにテーブルに置いていないか

▶ 職員の日線…

入居者に声をかけられたとき日線をあわせて向き合っているか

▶ ナースコール…

手の届く位置に設置されているか

▶ におい・清掃の状況…

トイレはもちろん、テーブルの布巾が不潔ではないか

「Uビジョン研究所」への取材から



以前、相談を受けたママは悩んでいました。キャリアウーマンのその方は、新しい部署に移ったばかりで新規事業にも取り組んでおり、今まで以上に忙しい日々を過ごしていました。



■子どもが示す様々なサイン

そして私の元に来られて、「子どもがまた熱を出しました。大事なプレゼンの日に限って熱を出すので困っています」と悩みを打ち明けてくれました。そして、こう続けました。

「子どもが熱を出すのは、我慢をさせていることが原因でしょうか。それならば申し訳ないと思うし、自分ってダメな母親だなと思うと落ち込んでしまいます」と。

親の生活が不安定なときや、精神的に落ち着いていないときは、確かに、子どもにも影響を与えることがあります。保育士などは、こういったことを理解したうえで子どもの様子や変化を日々見守っているのですが、パパやママにとっては、「急にどうして？」と驚かれることもあると思います。

子どもは様々な反応を示し、サインを出します。急に熱を出す、チックが出る、やたらと泣いて保育園に行きたがらない、急に食が細くなる、おねしょをする…などなど。これらは、「子ども自身が精いっぱい、何かを受け止めている姿」なんですね。

例えば、大人には概念があるので、悩んでいる人がいたら「話を聞いてあげる」、困っている人がいたら「助けてあげる」という相手に合わせた行動ができますが、子どもには概念がありませんし、方法も分かりません。だから、親が不安定なことを察してもどうしてあげたらよいかかわからず、その行動が親から見れば困った行動でも、受け止めた心持ちをサインとして出しているにすぎないのです。この姿はまさにけなげそのもの。

こんなふうに言うと、「子どもにつらい思いをさせてしまった私はダメな親だ」「自分が精神的に不安定だから子どもに熱を出させてしまった」と、特にママは自分を責めてしまいがちです。

■あなたは「ダメな親」ではありません

でも、そんなふうに思わないでほしいんです。「身体に反応を出して受け止めてくれたんだね。ありがとう。もう一度、仕切り直して頑張ろう」、そう思えばいいだけなんです。過剰に反応して「ダメな親」だなんて自分を責めないでください。

親の気持ちを察して子どもが頑張ってくれたのは事実ですが、それはお互いさまです。だって、家族ですもの。みんなで助け合わなければいけないときもあります。

「この1週間、嫌な言い方ばかりしちゃったな、この週末はゆっくり遊んであげよう」と思えたら、それでいいんです。親の気持ちが落ち着いたときにめいっぱい愛情を伝えてあげてください。そこで、帳尻を合わせることができれば、親自身も少し納得できるでしょう。家族で反応し合うことは、時に大切なことです。

何らかの反応が子どもに出たときには、「ごめんね」ではなく、「サインを出してくれてありがとう」と言ってあげたいですね。一度立ち止まって、ものの見方を変えてみようと思える機会をくれているのですから。

言葉が通じない外国の方に話しかけられたことはありますか？ 本当に困っている人に出会ったとき、助けてあげたくてもうまく話すことができないとあの手この手で一生懸命伝えます。それでも通じないとしたら、とても切ない。

子どももそんな気持ちなんじゃないかなあと 생각합니다。「(パパやママのために)何かしてあげたい」と思っているんだけど、言葉にならない。だから、サインを出してくれるのです。

■しつけとして伝えたいとき、過剰反応は避ける

子育てはいいときばかりではありません。大変だと感じるときには嫌な言い方をしてしまうこともあると思いますが、



これもパパやママの反応次第で子どもの態度は変わります。例えば、1歳ごろになると、親の顔を見ながらお茶をこぼす、こぼれたものを手でぐしゃぐしゃにする…ということがよくありますが、親が大きく反応してしまうことで、「食べ物で遊んではいけません」という遊びになっている場合があります。

保育園でも食事用のテーブルを出すと、子ども達が乗ってこようとすることがあります。「そんな所に上らないのよ」「危ないじゃないの、〇〇くん、△△ちゃん」と先生が言った途端、大喜びです。そして、收拾がつかなくなります。子ども達は保育士がどんな反応をするのか見ているんですね。「はい、降りますよ」と顔色一つ変えずに一人ずつ降りていくと、「なーんだ、つまんない」と言いたげな表情でやめて、テーブルに乗るという遊びには発展しません。

■疲れているパパも、いっぱいいっぱいのママも大好き

子どもにとって一番つらいのは、無視をされることです。「何をしても反応してもらえない」ということが続くと、寂しさにつながり、大人になっても心に傷として残ることがあります。ネグレクトなどがそうですね。極端に言えば、子どもは怒られてでも親に反応をしてほしいと思っています。大人の社会でも放ったらかしにされるというのはつらいものです。

親の反応の仕方は、人格形成に影響を与える一生ものです。どんな関わり方であっても、子どもはパパとママが大好きです。疲れているパパのことも、いっぱいいっぱいになって言葉がきつくなってしまいうママのことも、子どもはちゃんとわかっています。時には家庭内で不穏な空気が流れるときでも、それを否定することなく受け止めてゆきましょう。そうすることで、大人も感情のコントロールが上手になっていきます。

とはいえ、時には夫婦で、親子で、けんかをしてしまつて会話をしない、ということがあると思います。その状態をあまり長期間は続けなくてほしいなと思いますが、けんかをしていてもマイナスに捉えずに、「本音＝シークレットウォンツ」の表れだと思い直しましょう。

思い合っていたいという自分の思いを伝え、分かってほしい気持ちをぶつけることができたのですから。

日ごろから冷静になって本音を伝え合えばいいですが、なかなかそういうわけにもいきません。満たされないためにけんかになる訳ですよね。「けんかをしてはいけない」と思いすぎて我慢するぐらいなら、「言い過ぎてしまったけど、けんかできる相手がいてよかった」と思うことは悪いことではないはずですよ。

無国籍・重い障害、18歳 「自由に生きたい」 矢先の死 編集委員・伊藤智章

朝日新聞 2015年10月28日



飲食店でくつろぐマルビンさん＝2014年7月22日、東京都内、名古屋成年後見センター提供

無国籍で重度の障害のある18歳の少年が名古屋・大須の路上で、車いすから転落死した。骨が正常に発達せず、身長1メートル弱、20キロ。小さな体はわずかな衝撃も受け止められず、頭を打つたらしい。4月、施設を出て自立生活を始めたばかりだった。



亡くなったのは、エンリケス・マルビンさん（18）。9月18日、友人と遊びに来て「次の店を探してくる」と1人で飲食店を出た後、路上に倒れていた。

名古屋市によると、1997年1月生まれ。母は不法滞在のフィリピン人だったらしい。同5月、息子を残し、姿を消した。乳児院を経て、今年3月まで同市西区の医療型入所施設で育った。父の記録はない。

先天性の骨形成不全症で骨が弱かった。くしゃみをするだけで肋骨（ろっこつ）が折れ、手を振れば、腕の骨が折れた。10代半ばまで、1人で行動する範囲は施設と隣接する特別支援学校、100メートル先のコンビニエンスストアまでだった。

施設の仲間は夏休みなどに自宅に帰るが、マルビンさんには帰る場所がない。はた目には「明るいマルちゃん」だが、内心は「人と仲良くしたくない」。当時はそんな心境だった。

変化したのは中学の時だ。こっそりネットに接続し、施設生活や障害を隠した「第2のマルビン」としてチャットに参加し、社会へ関心を募らせたらしい。

高等部1年の時、「自由に生きたい。そのためにお金が欲しい」。愛知県の読書感想文コンクールでこんな夢と現実を見据えた文章を書き、部門最優秀の知事賞を取り職員を驚かせた。

あしのみじかいおじさん 誰？

読売新聞 2015年10月29日

福生市南田園の杉ノ子第二保育園には、2年前から「あしのみじかいおじさん」を名乗る人物からの寄付金が届いている。季節のイベントごとに届けられ、28日は寄付金を使って芋煮会を開催した。子供たちは秋の味覚に舌鼓を打ち、園関係者は、「誰なのかは気になるけれど、いつまでも見守ってほしい」としている。

あしのみじかいおじさんから、初めて寄付金が届いたのは、2013年のクリスマスの時だ。「すこしですがクリスマスにつかってください あしのみじかいおじさんより」という手紙とともに、現金1万円が同封されていた。以来、ひな祭りやこどもの日、秋の運動会などの季節行事に合わせて、1回1万円ずつ届いている。板橋区や港区などから差し出されていたり、保育園のポストに直接投かんされていたりする時もある。

ジーン・ウェブスターの名作「あしながおじさん」をもじって、「あしのみじかいおじさん」という名前を使っているとみられ、渡辺良郎園長（66）は「いまだに誰かわからないが、いつも変わらない思いやりは感謝にたえない」と話す。

同園は寄付を受け取るたびに「思いがけないクリスマスプレゼントをありがとうございました」といった、お礼のメッセージを園のポストに貼っているほか、寄付を役立てた行事でも感謝の言葉を述べていた。

今年8月に届いた寄付金に添えられた手紙には、「マイクでおれいのことばをありがとうございました」と書かれており、行事の参加者の中に「おじさん」がいたと思われる。今月も、「うんどうかい」「いもにかい」と書かれた手紙と計2万円が届き、28日の芋煮会で生かすことにした。

この日、同園を運営する社会福祉法人「志芳福祉会」の清水信作理事長（79）が「あしのみじかいおじさんからお金が送られてきました。きょうもこの中にいらっしゃるかもしれません。いつもありがとうございます」とあいさつ。料理が出来上がると、待ち構えていた約70人の園児たちは「あしのみじかいおじさん、ありがとうございます。いただきます」と声をそろえ、サトイモやサツマイモ、コンニャクなどが入った芋煮をほおぼっていた。

小俣美空ちゃん（4）は「芋煮のシイタケがおいしい」と笑顔を見せ、清水理事長は「お礼の言葉を伝えることしかできないが、これからも子供たちを見守ってくれたらうれしい」と話している。

余録：「わかってる？／あんたのなかにあたしがいるって」…

毎日新聞 2015年10月29日

「わかってる？／あんたのなかにあたしがいるって」。谷川（たにかわ）俊（しゅん）太郎（たろう）さんの詩である。「あたしにくちをきかないのは／あたしをみないでそっぽをむくのは／あたしをごみみたいにおもってるのは／あんなのなかにあたしがいるから…」▲「あんなはあたしにむかついてくれる／あんなはあたしをいじめてくれる／あんなのまえにあたしがいるとき／あたしはあんなのなかにいる」（「いじめっこ いじめられっこ（1）」童話屋）。谷川さんには小学3年の時に平手打ちされたいじめられ体験があるという▲先日、全国の小学校で昨年度に見つかったいじめが12万件を超えて過去最多だったとの文部科学省の調査結果が報じられた。目立つのは低学年での増加で、1年生では4年前に比べて6倍近い増え方という。これまで隠れていたいじめが認知されるようになったのだ▲かつては多くの先生が「いじめは高学年から」と考えていたようだ。それが最近では低学年にも注意を払うようになり、集計にはっきりと現れるようになったのだという。件数の増加を見過ごされなかった子どもたちの数と考えれば、「過去最多」の報にも救いはある▲詩集には小2の男子「いじめ太郎」君のこんな詩もある。「いじいじ いじめいじいじ いじめいじいじ／いじいじ／じめ・じ・め／いじめられる人は／泣いてしまう／いじめる人は／わらっている／いじいじ／じめじめ」。低学年の子の心もさいなむいじめである▲調査ではいじめはないという学校も多いが、はて本当か。もしかしてそういう学校はいじめに苦しむ子を一人も救えなかったのを反省すべきではないのか。

【主張】いじめ再調査 日々の指導を見直したい 産経新聞 2015年10月29日
全国の小中高校が把握したいじめの件数が、文部科学省の再調査で急増した。

実際に増えたというより、見過ごされていたケースがいかに多いかということだろう。調査時だけの場当たり的な対応に終わらせず、日々の把握や指導に生かしてもらいたい。

児童生徒の問題行動調査で、岩手県矢巾町で中2男子生徒がいじめを苦に自殺した事件を契機に、文科省が調査のやり直しを指示していた。

いじめ認知件数は昨年度、小中高校合わせ、約18万8千件にのぼり、当初集計より約3万件増えた。とくに小学校低学年の増加が目立った。

学校は、クラスにいじめがあれば、指導力が問われると考えがちで、報告に消極的な傾向がある。文科省は再調査にあたり、いじめ認知を「子供をよく見ている証拠」などとして報告を促した。

調査では、いじめの内容として「冷やかしやからかい」が6割を超えるなど、一見軽微で見過ごされやすいが深刻な問題につながる事案が目立つ。

こうしたいじめに対し、見て見ぬふりをしていなかったか。ほかにも子供たちの異変を見逃していないか。この調査を機会に、教師は改めて自身の指導を見直してもらいたい。

ネット上の陰湿な悪口など教師が把握しにくい問題も増えた。だからこそ日頃からの指導をしっかり行う必要がある。いじめをしてはならない、傍観するのは卑怯（ひきょう）だと、正義や勇気、思いやりの心などを体験的に育んでほしい。

教室では日々、子供たち同士のさまざまな問題が起きている。家庭との連携はもちろん欠かせないが、子供たちの様子を一番よく見ているのは教師であることを強く自覚することが大切だ。「授業で友達が発言するときには、おへそを向けてしっかり聞こう」といった指導の積み重ねで、問題行動を減らした学校がある。朝、職員室の会議を効率化して早く教室に向かい、児童との時間を増やす学校もある。

子供たちが相談しやすい環境をつくるとともに、問題が起きたときは担任だけで抱えず、学校内外で連携するよう指導態勢を日頃から整える。いじめから目を背け、不信を招いてきた学校の体質を変えていきたい。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も
大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行

